第１学年「図画工作」学習指導案

授業者　堀井　武彦

２月２１日（木）　２階アトリエ　９：００～９：４０

１　題材名　　えのぐのえ

２　題材について

本題材は，題材名「えのぐのえ」が示す通り，「絵の具」を描画材として「絵」をかく活動である。学校現場では，一般的に個人持ちの水彩絵の具セットを使う慣習があるが，低学年段階では原則的に共同用絵の具で描画することが前提である。また，絵の具を色ごとに小さい仕切りに並べる構造のパレットの使用は，低学年の発達段階を考慮すると妥当ではないという考え方もある。思いのままの色を，思いのままに使ってかく，という低学年の子どもの素朴な表現意欲を保障する願いに基づいている。そこで，本題材は，パレットの小さい仕切りに絵の具を並べ，筆ですくった絵の具を広い仕切りで混色するという材料・用具に埋め込まれた自明性を問い直すことをねらいとして設定した。

本学年は，２学期に「えのぐのえ」を絵の具の活動の導入として一度経験している。以下にその流れを示す。

①各自画用紙上（四つ切）の任意の場所に，好きな単色をおき，水を含まない筆でのばしてみる。

②絵の具の水分が不足するとのばしにくくなることに気付き，その対処方法として水を加えることを確認する（子どもたちは経験上知っている）。

③混色したいという欲求が発生する。授業者は「混ぜる色は２色まで，３色目は白。」の条件を伝える。

④混色を試したり，自分なりの主題を見付けて表現しようとしたり，多様な活動を試みる。

本時は，以上の経験に基づいて活動することを想定している。また，絵の具を描画材として扱うだけではなく，絵の具という「もの」としての物質性との対話に着目した「造形遊び」的要素も組み込んでいる。ただ，２学期の活動と大きく違う点は，大判画用紙上に協働で活動することである。必然的に互いの領域が他者と接触することになる。その際，１年生なりの他者意識が喚起され，自分の思いと他者の思いの折り合いを，絵の具をのばし，混ぜるという触知的な「行為」に浸りながら考えることになる。そこに，造形活動ならではの「てつがく」が立ち上がると考えている。

３　学習指導計画（１時間目／全３時間）

１次　２学期の経験を生かして，ファミリーで楽しみながら活動を始める。（１時間・本時）

２次　各自の活動が接触した際，どのように折り合いをつけるかを考えて活動を展開する。（１時間）

３次　自分の起点となった場所に，題名を書き，学級全体で相互鑑賞を行う。（１時間）

４　本時の学習について

（１）本時のねらい

・発想することを楽しみながら，立体に表す活動を始める。

（２）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留　意　点
１　２学期の活動を思い出して活動を始める。 ２　水の量を調整して色の濃淡をつくったり，筆の大小を使い分けてかくことを楽しむ。 ３　偶然できた模様を見立てて表したり，そこから主題を構想したりしてかくことを楽しむ。 ４　友人がかいた領域と接触する場合の折り合いのつけ方を共に考える。その際，画面全体のイメージのことも合わせて考えてみる。	・各自の起点となる正方形の画用紙の四隅に，各自が記名する。 ・混色は２色まで，混色３色目は白色のみを確認。 ・筆以外の描画用具を所定の場所に準備し，気づいた子どもから貸し出して，多様な用具の活用を促す場の設定をする。 ・他者との接触の折り合いをつける際，ファミリー内のイメージの分断が起こらないよう留意する。